

ルースキー島連絡橋

Bridges of the World

ロシア・ウラジオストク



ロシア・2012年発行

ロシア沿海地方の拠点都市、ウラジオストクに世界最長の斜張橋が2012年に完成しました。ウラジオストクはピョートル大帝湾内にあり、日本海に突き出したムラヴィヨフ・アムールスキー半島の南端に位置し、南側のルースキー島は東ボスポラス海峡で隔てられていますが、その海峡を一跨ぎする連絡橋が架けられました。

橋の延長は3100m、主橋梁部は全長1886mの斜張橋で、中央径間が1104mあり、その長さは現在、斜張橋の世界記録になっています。側径間はスパン60～83mの5径間から成っており、ケーブルによって桁に働く上向きの力を抑え込むように工夫されています。

橋面幅はおよそ24m、4車線が通っています。桁下高さは海面から70mが確保され、塔の高さは321m、塔から張られたケーブルは1面が21本、合計168本で桁を吊っています。ケーブル線は日本メーカー製、定着方法などにはフランスの会社のシステムが使われました。また、塔を支える120本の基礎杭は長さが77mあり、錐もみ式の掘削機を使って施工されました。

橋の設計に当たって特に注意が払われたのは低温と強風対策です。±40℃で所定の機能が果たせることや風速40mほどの突風に対しても安定性が求められました。

この連絡橋は、2012年のロシアにおけるアジア太平洋経済協力(APEC)の首脳会議を9月に開催すべく、ルースキー島に会場が準備され、それに間に合わせるように建設されました。建設は2008年に始められ、一時遅延も懸念されたようですが、大統領の強い指示もあって2012年8月に開通しました。

ウラジオストクは、金角湾と名付けられた深い湾を利用した港を持ち、太平洋方面への作戦を担う海軍基地として発展してきましたが、冷戦終結後は軍港の役割が低下し、極東地域への貿易港として再整備されつつあり、ルースキー島もリゾート開発が進められています。巨額のコストがかかる連絡橋の建設には批判もあったようですが、極東重視の政府の方針が貫かれました。そして、APEC首脳会議の会場は極東連邦大学のキャンパスに転用され、極東最大の総合大学の拠点になっています。

